

2022年6月28日 Vol.199

早くも梅雨明け、猛暑の夏到来

暑中お見舞い申し上げます。いつもならまだ梅雨明けが待ち遠しい時期ですが、今年は早くも梅雨明けとなり、同時に猛暑の夏がやってきました。電力不足の中での猛暑だけにエアコンをかけないでいると熱中症になりかねず、多少例年とは違いやや緊張感もあるのかも知れませんが、株式市場に咲き誇った個別銘柄の春から梅雨時の花々を眺めているうちに猛暑の中で百日紅など夏の花が咲き誇る季節を迎えようとしています。原油価格こそやや上昇が一般ですが、為替は1ドル＝135円台と相変わらずの円安で食料や原材料などの物価に反映される多くの国民が戸惑う状況です。一方では円安による日本製品の価格は海外からの観光客にはとても安い印象となり、ホテルやマンションなど不動産価格も割安感が高まっているという報道もなされています。輸出関連企業にとって円安は為替メリットを受けられますし、モノづくりの拠点が海外から国内に回帰するという現象も起きているとも言われます。そうした経済情勢の中で調整局面が続いてきた株式相場はこのところようやく物色気運を高めつつあるように感じられます。

こうした局面の中で日経平均やTOPIXといった株式指標は直近のボトムから戻りつつあるものの、投資家の銘柄選別の目は肥えてきており、個別株の動きは二極化。長期低迷の銘柄が突然動き出し上値を追った後に乱高下する事例も多々見られます。株価が比較定堅調なのは物言う株主の登場で株価への意識が高まった銘柄、自己株買い実施銘柄や高配当利回り銘柄などは大きく株価は上がりずとも下値が堅いとの印象です。特に最近では配当利回りが5%を超えるような銘柄が150ほども出ており、さすがにあきらめムードだった個人投資家の皆さんも関心を持って見守っておられるものと思います。

需給面では海外の金利上昇で海外機関投資家が運用するファンドの解約が進む一方で、国内のゼロ金利政策が継続される中で配当性向を高めに設定し結果として増配などに至るケースも見られます。個人投資家に皆さんにとっては高配当利回り銘柄を対象にした年金づくりのためのポートフォリオが構築しやすい状況も見られます。また、7月上場分までのIPO銘柄数は41で昨年の62に比べ21銘柄減少しており、需給の好転が徐々に進行しつつあるように思われます。

これまでIPO市場を敬遠しがちだった個人資金が銘柄ごとの是々非々で多少ポジティブに取り組んでいる様子が伺えます。直近では100年変わらずにきた化学製品製造プロセスの革新的な製造方法に挑戦し世界のCO2削減に貢献するマイクロ波化学（9227）が人気化。初値こそ公開価格605円を下回る550円でスタートしたが、その後は3日連続のストップ高を演じるなど異色の展開が見られる。このほか、人工宝石製造用のダイヤモンド単結晶のユニークな製造法で世界的な活躍が期待されるイーディーピー（7794）にも関心が高まるなど久々にIPO銘柄への人気は猛暑の中でホットな状況となってきました。

（東京IPOコラムニスト 松尾範久）